

開催日：2019年4月24日（水）10：00～11：30

リポーター：佐々木ゼミナール 猪瀬

出席者は150名程。人気校ならではの熱気が感じられました。

最初に校長先生より「学園の理念と教育」についてのお話がありました。

府立第一高女（現在の都立白鷗高校）の同窓会が長く第一高女の校長を務めた市川源三を校長に迎えて1935年に創立したことなど、学校の沿革を中心としたお話でした。「自学自治」「自動創造」「全人教育」をめざした教育を行ってきたこと、それらは現在盛んに言われるアクティブラーニングを先取りしたものであったことなどのお話がありました。

続いて学習指導部長から指導全般について。

「自ら課題を発見し、解決できる力を養う」ことなど総論的な話を中心でしたが、「我が校では主要5教科という言い方はしない。全ての教科をしっかりと学ばせます」ということで、園芸やリトミックなども含めて実技教科にも力を入れていることを強調されていました。

特記事項としては、まず2004年から導入しているAll Englishによる英語授業で、日本語を介さずに英語を理解することを目指して多読・多聴の習慣をつけるようにしているとのこと。

次に、BYOD(Bring Your Own Device)というシステム。これは生徒が日常使い慣れた端末(タブレット、ノートPC、スマートフォンなど)を学校に持参して(中学生は学校のPCやiPadなどを使用)授業や課外活動などに活用するというもの。ICT機器を学びのツールとして使いこなせるようにすることや、ルールとマナーを身につけることが狙いとのこと。学習面での効果は正直未知数と思われませんが、社会に出てから役に立つことは間違いないでしょう。

続いて教頭先生より2019年度の入試報告。

ポイントは、1日入試の受験者数が4年連続で増加していることと、3日入試の受験者が昨年より100名以上増加していることで、特に3日入試については時間帯ごとの出願状況を分析すると、2日の14時～17時頃の出願が大きく増加しており、御三家合格発表後の出願が増えたためではないかとのことでした。また、辞退者の進学先の分析も興味深く、1日合格者では豊島岡10名、洗足4名など。また、帰国枠はないが、帰国生加点制度があり、事情を考慮した上で2～40点の加点があり、保護者面談によって点数が決められるとのこと。大学合格者状況についての報告もあり、東大3名を始めとして昨年並みの結果で、私立大学が合格者数を減らす中で健闘したと思います、とのことでした。また、医・歯・薬や芸術系なども含め進路が多様であるという点を強調されていました。

続いて各教科の先生方から入試問題についての説明。

どの教科も出題形式や傾向は例年通りであり、特記事項はないように思われました。

算数は例年通り、途中式や図、図中の書き込みなども採点対象とする「全問記述式」で、解答のみの場合は採点しないことを明言されていました。

全体として、学校側としては単なる進学校ではないという点を強調している印象を受けましたが、「御三家に次ぐ進学校」という立ち位置は確立されていると思います。特に3日入試はかなり厳しく、最初から第一志望で進めないといけないのではないのでしょうか。ただし、問題そのものはオーソドックスなものですから、きちんと勉強していけば大丈夫だと思います。